

笠原小学校の適正配置等に関する自治会長との意見交換会 主な意見・質問と回答

日時：7月25日（土） 午後5時00分～午後6時00分

場所：笠原公民館

主催：鴻巣市教育委員会

参加者：14名/18名

出席者：齊藤教育部長、野本参与、清水副部長、鳥沢課長、藤平副課長、新井副主査

1 開 会

2 挨拶（教育部長）

3 資料説明

（1）これまでの笠原小学校に関する審議会等の経緯

（2）笠原小学校児童生徒数の現状と推移

（3）教育委員会としての今後の方針（笠原小学校の統廃合について）

（5）統廃合に関するスケジュール

4 在校生保護者、令和3年度入学予定の児童保護者との意見交換会での意見について

5 意見交換

6 閉 会

【意見と回答の要旨】 ※「→」は当日の回答

1. 教育委員会としては、統廃合について、いつ頃を考えているのか。
→制度上は来年度実施も可能であるが、定例教育委員会や懇話会では、慎重にという意見や交流事業を実施してからという意見をいただいている。加えて、意見交換会等の意見を踏まえて判断したいと考えている。
2. 小学校は歩いて行ける範囲にあるものと考えている。
→学校の適正規模を考えると、1 学年 2 クラス以上が良いのではないかという国の基準もある中で、笠原小学校が仮に統合するとして、1 学年 2 クラス編成を行うとすると、鴻巣中央小学校に限定されるのではないかと考えている。
現在は、ワゴン車による登校支援を実施しているが、今後も検討を継続していく。
3. 意見交換会について廃校が決まった中で、業務の一つとして実施しているのではないかと考えてしまう。
→平成 27 年からこのような検討を重ねてきており、良い教育環境を提供することが教育委員会の責務であると考えたときに、現実的に 1 年生が 0 人であるという状況、また児童数の推移をみても、今後より小規模化していく環境では、様々な活動に制約が生じ、市内の他校との格差も広がっていくと予想されることから、廃止を決定させてもらった。
あくまで、教育委員会としての決定であり、正式には鴻巣市議会での承認をいただくことになる。
4. 各小学校において生じる格差とは何か。
→極端に少ない人数であると、集団で実施するスポーツ、例えばバレーボールができなかったり、グループに分かれて学習、研究し、班ごとに意見を発表しあうなど、色々な考え方に触れ合う機会を作るのが難しいと考える。

5. 今の通学風景を見ると、一列で話もせず歩いていくのは違和感がある。
文科省が効率化や適正配置等、綺麗ごとを並べたものに対して、教育委員会は地元を守るものだと思う。
文科省に対抗する必要があるのではないか。
学校の存続のために、保育園や幼稚園と小学校を組み合わせたり、場合によっては、お年寄りとのコミュニケーション、遊びも含めて、学校のあり方を考えていくことが必要ではないか。笠原小を守り育てる会の意見にも書いた。
始めから効率化により小学校を減らしていくのではなく、遊びながら通学できるような学校であってほしい。
→今年度の児童の保護者が全員鴻巣中央小学校を希望されたということは保護者の意思表示であり、重く受け止めている。このことから、笠原小学校を廃止して、鴻巣中央小学校と統合することが、現在考えられる最善ではないかと考えている。

6. 保護者が鴻巣中央小学校を選択したというのは、教育委員会からの誘導があったと聞くがどうなのか。
→1月に入学通知書を郵送した。人数が5人と少なかったため、複式学級になる可能性もあり、教職員配置に影響がでることから保護者への確認を行ったが、前段の説明として通学区域は笠原小学校ということ伝えて上で、確認しており、誘導している事実はない。
鴻巣中央小学校に行きたいが、スクールバスを出してくれないのかと複数の保護者から言われていた。その後市として、基準を設けた上で、登校支援を導入したが、あくまでも審議会の答申に基づいた対応である。下校については、放課後児童クラブを活用するなど保護者の責任において対応していただいている。

7. 効率化も良いと思うが、教育というのはそれではいけないと思う。
→クラス替えが可能となる人数であることなど、子どもたちの教育環境ということ第一に、鴻巣中央小学校との統合を考えているため、効率化という考えはない。

8. スケジュール表について、跡地活用とあるが、廃校が決まってないのに、民間業者の募集をしているということを耳にするが、その事実は。
→事実は全くない。民間のノウハウを活用して、公民館や生涯学習センターとの運営をしていくことという事例はあるが、あくまで手法であり、学校を売ってしまおうなどという考えは全くない。教育委員会だけでなく市全体として活用を検討してということをお手元のスケジュールに併記させてもらっている。

9. 児童の推移をみると、共和小等も人数が少ないと思うが、検討しているのか。市全体として検討する基準は。

→平成 27 年の適正配置の審議会の答申においては、統廃合等については時期尚早という答申をいただいている。ただ今後も、例えば、中学校との接続等については見直すよう検討を継続することなどの意見をいただいております。市全体としては、鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会や鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会で検討していく。

笠原小学校については 1 年生が 0 人に加え、人数が極端に少なくなることが予想されることからこのような場を設けさせてもらっている。

10. 共和小は川里中学校しか選択肢がないが、笠原小学校は鴻巣中学校、鴻巣北中学校と選択肢がある。バランスは。笠原小学校は鴻巣中学なのか。鴻巣北中学校ではないのか。

→川里地域は 3 小学校が一緒になってという検討がなされたが、慎重にやっていると考えている。

中学校の接続に関しては、小学校からの進学先が地域によって分かれなないようにと考えている。安養寺地区については、鴻巣北中学校に進学しているため、強制的に鴻巣中学校へ進学させるということではなく、経過措置を見ながら、兄弟等に配慮し選択できるよう考えている。

11. 笠原小学校は児童数が少なすぎて授業として成り立っていないのではないかと考えており、統合もやむを得ないと考える。ここにいる地域の努力も多少足りなかったところもあるかと思うが、農業地区でありどうしようもないとも思っている。

そのような中で、どこかの会が企画した意見聴取の機会に、工業団地の誘致等、意見として提出したが全く回答はなかったため、なぜ勝手なことをしているのだろうと思った。

このような児童数となると、学校として成り立っていないのではないかと、教職員の配置も極端に少なくなるのではないかと心配している。

市全体として人口が減少しているため、行政には学校だけではなくて、人口を増やすための努力をしてほしい。

12. 登下校ではなく、登校のみの支援なのか。

→現在は通学区審議会の答申にあるように、弾力的な運用をしている。

登校支援のみであり、下校支援はしていない。来年以降も遠距離通学を強いられている児童の交通手段の確保や下校の支援等も検討していかなくてはと考えている。

廃校になることが決定した段階では、下校支援及び 2 キロ基準についても柔軟に対応していかなくてはと考えている。

13. 地域の間は廃校という言葉はきつい言葉に感じるため、「統合」等を使ってほしい。
→廃校という言葉は内部でもきつい言葉であると認識している。
ただ、条例を出す場合には「廃止」という言葉を使わせていただく。
現段階では鴻巣中央小学校に編入という言葉を使っているが、今後はこの言葉は変わっていくと考えられる。
14. 鴻巣中央小学校の受け止め方は。
→鴻巣中央小学校、笠原小学校の両校長には話をしており、交流事業等を実施し、児童が早くなじめるように考えている。
15. 地域の方は、子どもたちを地域で育てたいと思っており、協力し合いながら学校を盛り立てて、笠原小学校で育ったということを人生の宝にしてほしいと思っている。地域の中には守る会というのがあり、存続を願っており、総会を開催した結果、笠原小学校は残していきたいということになった。
そのような方たちがいることを前提に、そのような方たちへの説明、また、保護者に対する説明を踏まえてスケジュールを検討してほしい。
笠原地域が2分しないように取り組んでもらいたい。
→地域の方に意見をいただくことは重要と考えている。
コロナ禍においては、不特定多数の方を集めることは控えている。
なかなか集まることができないが、今回はアンケートのような形をとらせてもらい、その後、年内どこかで、コロナの状況を見ながら開催できればと考える意見を聞きながら取り組んでいければと考えている。